

災害時の避難

避難の心得

災害が発生し、家の中にとどまることが危険になった場合は、落ち着いてすみやかに避難しましょう。そのとき、子どもや高齢者などの災害時要配慮者の保護を優先しながら、近所の一人暮らしの高齢者などにも声をかけるなど、近隣で協力することが大切です。

自分で判断(自主避難)～危険を感じたらすぐ避難しましょう～

局地的集中豪雨のように、突発的な異常気象の場合には、市からの避難情報が間に合わない場合もあります。市からの避難勧告・指示がない場合でも、身のまわりに危険を感じるときは、知人の家や自治会館など、自らの判断で避難しましょう。

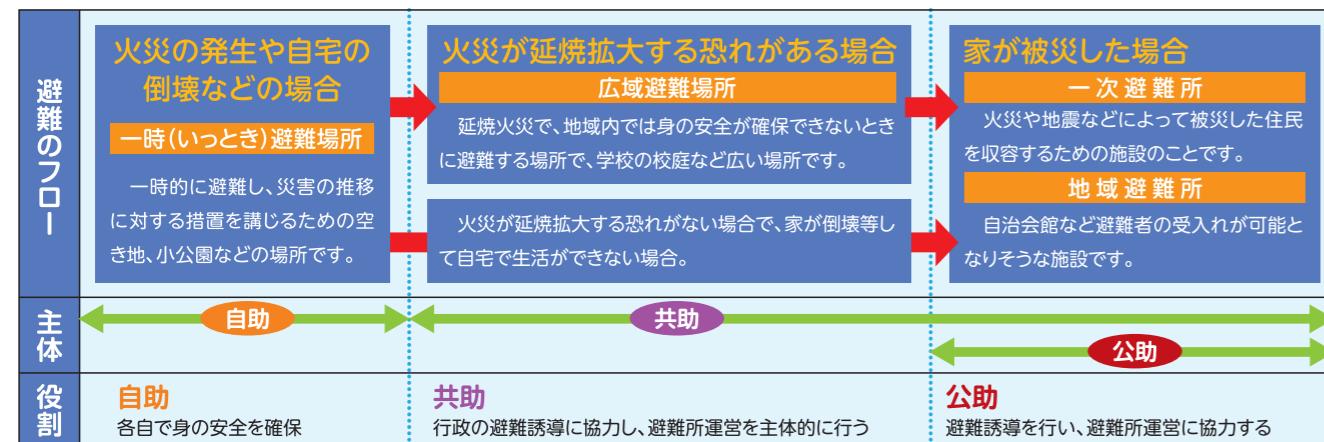
避難の情報

災害の危険がせまり、避難が必要となった場合は、3種類の避難に関する情報が発令されます。この情報は、状況の深刻度に応じて発令されますので、各情報に応じた避難行動をとりましょう。

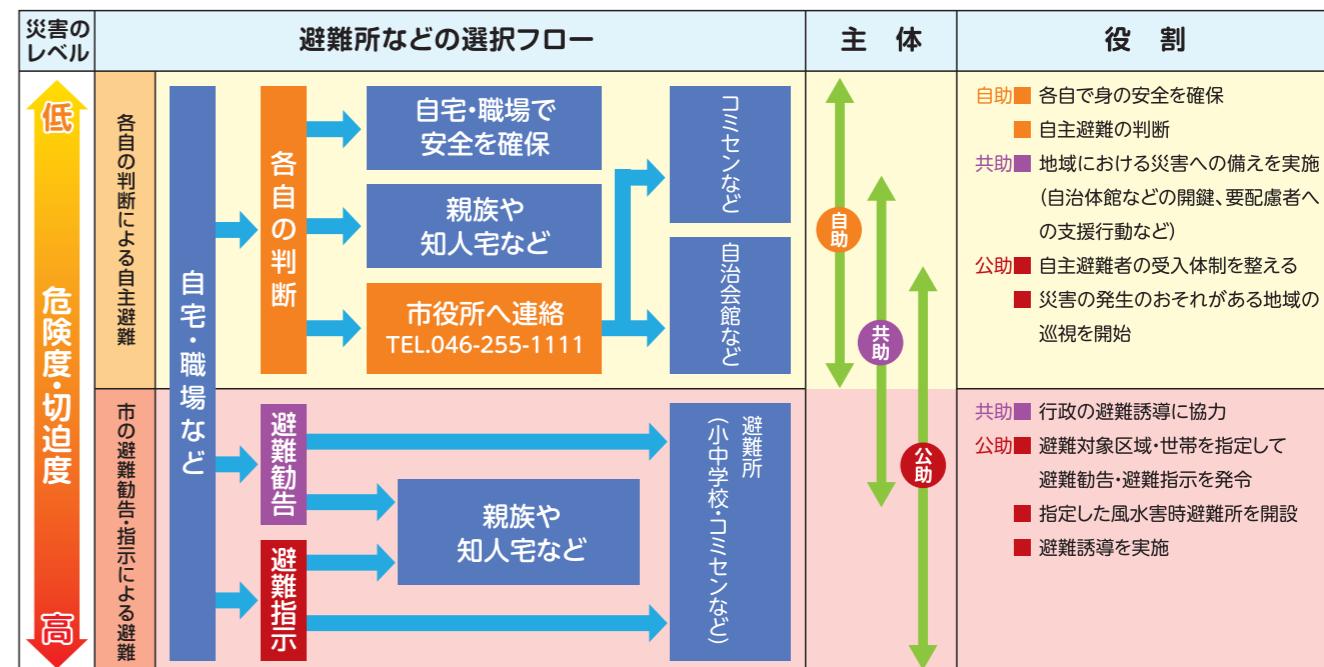


避難体系【地震】

日ごろから、自治会が指定している一時(いっとき)避難場所、わが家の避難場所や一次避難所を確認しておきましょう。(15ページからの防災マップをご確認ください。)



避難体系【風水害】



避難のポイント

